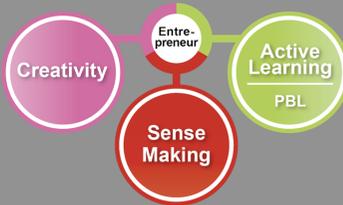


# アイデアをデザインする ～地域・社会連携～

教室を「アイデアを創造するデザインパーク」に見立て、パーク内に受講生がバーチャル企業を立ち上げ、教室の垣根を越え、座学では学ぶことのできない経験（アイデアの商品化）を通じ、地域社会の営みやしくみ、ベンチャービジネス・スタートの基本を学んでいます。



## 活動の概要

目的	アントレプレナー及びイノベーターの涵養、最先端のICT、学習理論、発達理論、ゲーミフィケーション等の活用／創意工夫（デバイス、インターフェイス、ソフト、便利機能等）の発想・開発・デザイン・設計・商品化・ブランド化／クリティカルシンキングおよび根拠情報を基にした論理的思考の構築による発想力の向上
連携メンバーおよび役割	関西大学卒業生が活躍する企業／ASEAN諸国にある教育関連のIT企業／知的財産担当者／授業科目「アイデアをデザインする」履修生（一部、本学留学生を含む） …SWOT分析、PEST分析等による市場調査を踏まえ、50年後の社会で使われる商品を開発する 関西大学教育推進部教授 山本敏幸…プロジェクトデザイン、進捗状況の管理、学生に対するアドバイス
活動地域	関西大学千里山キャンパス（外部協力者は授業参加あるいはビデオ会議、オンライン等による参加）
活動期間	2014年4月～2015年3月（2017年度からのグローバル展開を計画）

## 連携の経緯

関西大学チャレンジ科目として「アイデアをデザインする」を開講したことを契機として活動がスタートした。科目では「これから20年後の生活を便利・豊かにする日常の商品をデザインする」をテーマに、チームベースのプロジェクト型アクティブ・ラーニングで主体的学びの涵養を目指した。さらに、IT企業経験者や知的財産業務従事者をゲストスピーカーとして招き、実践経験の共有を通じた、地域社会連携によるステークホルダー間の協働型チームベース学習モデルも採用。地域社会との連携による課題定義・課題解決型の学びを実践した。

## 解決すべき課題

- (1) グローバル地域社会を視野に入れた教室・学内の枠を超えたアクティブ・ラーニングの実践
- (2) グローバル地域社会連携による信頼関係の構築とその信頼関係の継続
- (3) フューチャーデザインの礎となる社会人基礎力（クリティカルシンキング・クリエイティブシンキング、交渉学）を踏まえた信頼を基盤としたコミュニケーション力の育成
- (4) 地域社会・産学連携によるステークホルダー間の共感を通じた課題発見、課題の定義、解決への合意形成
- (5) チームベースのイノベーション思考の涵養



## 大学の役割

本活動において、関西大学は教育カリキュラムの構築・運営および履修生への指導・助言を担う。授業は実践学習形式で進められ、学生は商品開発から起業までのプロセスを体験する。学習内容には市場調査、リスクマネジメント、コンセプトメイキング、プロダクトデザイン、マーケット展開等、一連の流れが包括されており、単なる「起業ごっこ」体験ではなく、社会に貢献する責任感の涵養や地域社会の営みの仕組みを理解することを目指す。

また、本活動は企業で活躍する卒業生も含めた三者協働型のPBL（Project-Based Learning 課題解決型学習）としても展開。地域社会の方々との協働を通じて、知識・知恵・経験・価値を共感し、信頼関係を構築することで、現実に即した地域課題の定義・解決を行っている。また、それはコミュニケーション力の向上と思いやりの大切さを学ぶことにつながっている。

以上のとおり、本活動ではキャンパスを越え、地域社会の方々と同じ目線で考え、対話し、共感しながら協働するプロセスを地道に実践している。さまざまな世代の人で構成される地域社会と同様に、大学では学部や年齢、出身国の枠を超えた多くの学生が、自分たちが置かれた状況の中で課題を定義し、その解決に向けた対話による合意形成のプロセスを学んでいる。2017年以降はグローバル化も加味して展開計画中である。

## 成果

- (1) クリティカルシンキング、クリエイティブシンキング、交渉学的コミュニケーション能力を基にしたチームベースのイノベーション思考力の育成
- (2) コミュニケーションによる信頼関係構築と維持、思いやりの大切さの学習
- (3) 起業を目指す学生へのシミュレーションの場の提供および起業家の責任感と段取り力の育成
- (4) アイディアの商品化とブランディングによる地域社会（企業）の営みの仕組みに関する理解力向上
- (5) PBLによる主体的な学習姿勢の獲得
- (6) ブランド化した商品の流通の実践（起業投資からdeath of valley脱却までのプロセスの実践体験）



商品紹介・ブランディングプレゼンテーションの様子

## 研究者の紹介



教育推進部 教授  
山本 敏幸  
(やまもと としゆき)

2015年度は20チームが「社会を豊かにする20年後の商品」を開発！